

# 平成20年度 定期作況報告

(11月20日 最終)

北海道立中央農業試験場

# 水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

## I 気象概況

本年の根雪終日は3月30日で平年より10日早かった、晩霜は5月11日で平年より8日遅かった。  
 4月：平均気温は8.1℃で平年より2.0℃高く、降水量は平年の30%、日照時間は平年の111%であった。  
 5月：平均気温は11.8℃で平年より0.4℃低く、降水量は平年の70%、日照時間は平年の90%であった。  
 6月：平均気温は16.5℃で平年より0.1℃低く、降水量は平年の76%、日照時間は平年の103%であった。  
 7月：平均気温は21.1℃で平年より1.0℃高く、降水量は平年の44%、日照時間は平年の96%であった。  
 8月：平均気温は20.5℃で平年より1.4℃低く、降水量は平年の79%、日照時間は平年の112%であった。  
 9月：平均気温は17.9℃で平年より0.5℃高く、降水量は平年の43%、日照時間は平年の123%であった。  
 10月：平均気温は11.7℃で平年より0.8℃高く、降水量は平年の108%、日照時間は平年の98%であった。  
 本年の降雪初日は11月4日で平年より3日遅かった。

以上農耕期間の5月から9月についてまとめると、気温は7月で平年より高く、反対に8月は平年より低く経過した。その他の期間はほぼ平年並であった。日照時間は、農耕期間を通じてほぼ平年並に推移した。降水量は農耕期間を通じて平年より少なく推移した。

5月から9月までの積算値では、平均気温は12℃低く、日照時間は平年の104%、降水量は60%であった。

### 気象表

月旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			日照時間 (h)			降水量 (mm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4月上旬	5.9	3.3	2.6	11.0	7.4	3.6	0.8	-0.8	1.6	55.8	58.0	△ 2.2	4.0	14.6	△ 10.6
中旬	8.8	6.7	2.1	15.7	11.2	4.5	2.0	2.1	△ 0.1	80.0	52.7	27.3	0.0	23.5	△ 23.5
下旬	9.7	8.3	1.4	15.6	13.3	2.3	3.8	3.3	0.5	52.3	58.7	△ 6.4	12.5	16.0	△ 3.5
4月平均・積算	8.1	6.1	2.0	14.1	10.6	3.5	2.2	1.6	0.6	188.1	169.4	18.7	16.5	54.1	△ 37.6
5月上旬	11.5	10.0	1.5	17.0	15.1	1.9	6.0	5.0	1.0	67.9	65.3	2.6	18.0	38.8	△ 20.8
中旬	11.0	12.3	△ 1.3	16.5	17.2	△ 0.7	5.5	7.3	△ 1.8	61.9	64.1	△ 2.2	35.0	28.4	6.6
下旬	12.7	14.0	△ 1.3	16.8	19.1	△ 2.3	8.5	9.0	△ 0.5	51.1	71.3	△ 20.2	11.5	25.7	△ 14.2
5月平均・積算	11.8	12.2	△ 0.4	16.8	17.2	△ 0.4	6.8	7.1	△ 0.3	180.9	200.7	△ 19.8	64.5	92.9	△ 28.4
6月上旬	15.5	14.9	0.6	20.1	19.7	0.4	10.9	10.0	0.9	71.5	68.8	2.7	14.5	20.6	△ 6.1
中旬	15.5	16.9	△ 1.4	20.1	21.5	△ 1.4	10.9	12.2	△ 1.3	49.9	59.9	△ 10.0	30.0	15.5	14.5
下旬	18.6	18.1	0.5	23.8	22.5	1.3	13.5	13.8	△ 0.3	74.1	60.6	13.5	0.0	22.3	△ 22.3
6月平均・積算	16.5	16.6	△ 0.1	21.4	21.2	0.2	11.7	12.0	△ 0.3	195.5	189.3	6.2	44.5	58.4	△ 13.9
7月上旬	21.5	18.5	3.0	26.0	22.4	3.6	16.9	14.6	2.3	56.6	48.6	8.0	7.0	41.6	△ 34.6
中旬	20.8	20.1	0.7	23.8	23.7	0.1	17.8	16.4	1.4	24.0	43.1	△ 19.1	30.5	40.6	△ 10.1
下旬	21.1	21.6	△ 0.5	24.8	25.4	△ 0.6	17.3	17.7	△ 0.4	60.2	54.7	5.5	22.0	52.6	△ 30.6
7月平均・積算	21.1	20.1	1.0	24.9	23.9	1.0	17.3	16.3	1.0	140.8	146.4	△ 5.6	59.5	134.8	△ 75.3
8月上旬	21.8	22.8	△ 1.0	26.7	26.6	0.1	17.0	19.1	△ 2.1	85.9	51.6	34.3	41.5	45.9	△ 4.4
中旬	20.9	22.0	△ 1.1	24.7	26.0	△ 1.3	17.1	17.9	△ 0.8	54.3	55.9	△ 1.6	18.5	28.0	△ 9.5
下旬	18.9	20.9	△ 2.0	22.4	24.9	△ 2.5	15.4	17.0	△ 1.6	39.9	54.0	△ 14.1	45.0	59.2	△ 14.2
8月平均・積算	20.5	21.9	△ 1.4	24.5	25.8	△ 1.3	16.5	18.0	△ 1.5	180.1	161.5	18.6	105.0	133.1	△ 28.1
9月上旬	21.8	19.6	2.2	26.6	23.9	2.7	16.9	15.3	1.6	65.0	52.8	12.2	14.5	38.1	△ 23.6
中旬	18.4	17.6	0.8	24.2	21.9	2.3	12.6	13.4	△ 0.8	82.3	49.8	32.5	0.0	48.0	△ 48.0
下旬	13.6	14.9	△ 1.3	18.2	19.8	△ 1.6	9.0	10.1	△ 1.1	47.8	55.5	△ 7.7	40.0	40.4	△ 0.4
9月平均・積算	17.9	17.4	0.5	23.0	21.8	1.2	12.8	12.9	△ 0.1	195.1	158.1	37.0	54.5	126.5	△ 72.0
10月上旬	12.6	13.2	△ 0.6	16.8	17.7	△ 0.9	8.3	8.6	△ 0.3	41.0	48.5	△ 7.5	59.0	33.8	25.2
中旬	13.3	10.8	2.5	18.1	15.5	2.6	8.5	6.1	2.4	63.6	50.1	13.5	10.0	30.6	△ 20.6
下旬	9.4	8.8	0.6	13.2	13.0	0.2	5.5	4.7	0.8	38.2	46.6	△ 8.4	32.0	29.2	2.8
10月平均・積算	11.7	10.9	0.8	16.0	15.3	0.7	7.4	6.4	1.0	142.8	145.2	△ 2.4	101.0	93.6	7.4

農耕期間積算値（5月～9月）

区別	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
本年	2688	328	892
平年	2700	545	856
比較	△ 12	△ 217	36

季節調査（年. 月. 日）

区別	根雪初日	根雪終日	降雪終日	耕鋤始	晩霜	初霜	降雪初日
本年	H20. 未達	H20. 3.30	H20. 3.29	H20. 5.7	H20. 5.11	H20. 10.17	H20. 11.4
平年	11.25	4.9	4.16	4.30	5.3	10.19	11.1
比較	—	△ 10	△ 18	7	8	△ 2	3

注1) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は10か年の平年値（1998～2007）を農試が算出し、使用。

注2) 最高、最低気温は期間内の平均値、平均気温は各日最高、最低気温の平均で期間内の平均値をそれぞれ用いた

注3) 降水量・日照時間は期間内の積算値を用いた。

注4) 岩見沢測候所閉鎖（H17）にともない、本年の根雪、降雪、霜のデータはアメダス岩見沢の観測地から推定した。

## II 作 況

平成20年最終作況 良

事由:本年は融雪が早く、4月も降水量が少なかったため、圃場作業が順調に進んだ。播種は平年より1日早い4月18日に行った。

播種後、好天に恵まれたが、5月10日前後の低温により生育が停滞したため、苗の形質は平年より劣っていた。移植は平年並の5月21日に行った。

移植直後は天候に恵まれず、6月はほぼ平年並の気温で推移したが、初期生育は平年より劣っていた。しかし、7月は特に上旬で高温に推移したため、出穂期は平年並であった。

8月は低温に推移し、登熟は緩慢に進んだが、9月上旬に好天が続き、遅れた登熟が回復し、成熟期は平年より2日から1日遅い程度にとどまった。

成熟期における穂数は、出穂前の茎数確保が十分できていたことから、平年比106～107%であった。また、1穂粒数は平年比101～102%で、稔実歩合は平年を4.4～10.2ポイント上回っていたことから、㎡当たりの稔実粒数は平年比121～114%と多かった。登熟歩合は平年を4.7～6.1ポイント上回り、屑米歩合は平年より2.4～4.0ポイント少なく、千粒重がほぼ平年並であった。そのため、精玄米重は「きらら397」で平年比117%、「ほしのゆめ」で平年比114%と平年を大きく上回った。

検査等級は、「ほしのゆめ」で1等下と平年を上回り、「きらら397」では2等中と下回った。「きらら397」の落等要因は主に腹白の多発であった。

以上により、本年の作況は良である。

沫  
そ

注1) 作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	90～	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗	
項目	年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	(参考)
播種期	(月.日)	4.18	4.19	△ 1	4.18	4.19	△ 1	4.18	4.18
移植期	(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21	5.22
幼穂形成期	(月.日)	7.10	7.07	3	7.08	7.05	3	7.07	7.04
止葉始	(月.日)	7.24	7.23	1	7.22	7.21	1	7.19	7.19
出穂期	(月.日)	8.05	8.05	0	8.04	8.04	0	8.03	8.04
成熟期	(月.日)	9.24	9.22	2	9.21	9.20	1	9.22	9.19
穂揃日数	(日)	6	6.8	△ 0.8	6	7.8	△ 1.8	7	6.0
出穂まで日数	(日)	109	108	1	108	107	1	107	108
生育日数	(日)	159	156	3	156	154	2	157	154
移植時地上部乾物重(g/100本)		1.79	2.33	△ 0.54	1.73	2.35	△ 0.62	1.81	2.40
草丈 (cm)	移植時	9.6	10.3	△ 0.7	9.3	10.7	△ 1.4	9.4	9.9
	6月20日	19.7	24.7	△ 5.0	20.2	26.9	△ 6.7	22.0	26.5
	7月20日	60.2	55.8	4.4	60.4	58.2	2.2	67.6	61.2
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/㎡)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.2	1.2	0.0	1.0	1.1
	6月20日	308	337	△ 29	288	352	△ 64	335	306
	7月20日	943	887	56	928	888	40	930	802
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.3	3.3	0.0	3.1	3.3	△ 0.2	3.2	3.1
	6月20日	6.9	6.8	0.1	6.3	6.6	△ 0.3	6.7	6.8
	7月20日	11.1	10.6	0.5	10.3	9.9	0.4	10.5	10.4
	止葉	11.8	11.2	0.6	10.8	10.2	0.6	10.6	10.6
稈長	(cm)	68.6	63.1	5.5	70.0	66.4	3.6	71.8	66.4
穂長	(cm)	17.2	16.4	0.8	15.7	15.6	0.1	17.2	16.7
穂数	(本/㎡)	775	731	44	828	774	54	810	700
一穂粒数	(粒)	49.1	48.7	0.4	45.0	44.3	0.7	54.5	57.0
㎡当粒数	(百粒)	381	356	25	373	343	30	441	399
稔実歩合	(%)	91.0	80.8	10.2	90.2	85.8	4.4	87.1	80.2
登熟歩合	(%)	77.9	71.8	6.1	80.9	76.2	4.7	84.7	68.7
籾摺歩合	(%)	75.8	74.7	1.1	72.1	69.6	2.5	76.3	73.5
屑米歩合	(%)	7.5	9.9	△ 2.4	11.9	15.9	△ 4.0	7.1	13.1
千粒重	(g)	22.4	22.6	△ 0.2	21.6	21.4	0.2	21.6	21.3
わら重	(kg/a)	67.3	68.5	△ 1.2	69.8	68.8	1.0	73.2	80.0
精籾重	(kg/a)	82.7	71.8	10.9	78.1	71.3	6.8	82.4	72.1
精玄米重	(kg/a)	62.7	53.6	9.1	56.3	49.6	6.7	62.9	53.0
収量平年対比	(%)	117	100	17	114	100	14	(119)	(100)
検査等級		2中	2上	—	1下	2上	—	1下	1下

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2) 一昨年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。同品種の(参考)は過去2か年の平均値である。

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

量 : 中苗紙筒=180cc/箱 栽植密度 : 30×13.3cm 25株/㎡ 4本植え

移植方法 : 手植え 反 復 : 2

注4) 刈り取り面積は一区3.6㎡、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

# 畑作の部

畑作科(長沼町)

## I 気象概況

平成19年9月から平成20年10月までの概況は次のとおりである。

### 平成19年

9月:平均気温は18.2℃で平年より1.0℃高く、降水量は平年の157%、日照時間は平年の92%であった。  
 10月:平均気温は10.4℃で平年より0.6℃低く、降水量は平年の26%、日照時間は平年の111%であった。  
 11月:平均気温は2.5℃で平年より1.5℃低く、降水量は平年の60%、日照時間は平年の126%であった。  
 12月:平均気温は-2.8℃で平年より1.1℃高く、降水量は平年の41%、日照時間は平年の98%であった。

### 平成20年

1月:平均気温は-7.3℃で平年より0.7℃低く、降水量は平年の60%、日照時間は平年の107%であった。  
 2月:平均気温は-6.3℃で平年より0.8℃低く、降水量は平年の136%、日照時間は平年の113%であった。  
 3月:平均気温は1.0℃で平年より2.0℃高く、降水量は平年の44%、日照時間は平年の111%であった。  
 4月:平均気温は7.4℃で平年より1.4℃高く、降水量は平年の44%、日照時間は平年の123%であった。  
 5月:平均気温は10.9℃で平年より0.5℃低く、降水量は平年の86%、日照時間は平年の102%であった。  
 6月:平均気温は15.6℃で平年より0.2℃低く、降水量は平年の81%、日照時間は平年の124%であった。  
 7月:平均気温は19.5℃で平年より0.3℃高く、降水量は平年の44%、日照時間は平年の105%であった。  
 8月:平均気温は20.0℃で平年より1.4℃低く、降水量は平年の112%、日照時間は平年の123%であった。  
 9月:平均気温は17.5℃で平年と同じであり、降水量は平年の22%、日照時間は平年の127%であった。  
 10月:平均気温は11.3℃で平年より0.2℃高く、降水量は平年の99%、日照時間は平年の102%であった。

本年の根雪終日は3月30日で平年より5日早く、晩霜は4月26日で平年より5日早かった。

以上、農耕期間の4月から10月についてまとめると、気温は平年と比べ4月で高く、8月で低く、他は平年並みに推移した。日照時間は、平年より多く推移した。降水量は8月は平年より多かったが、他は少なく推移した。5月から9月までの積算値では、平均気温は59℃低く、日照時間は平年の116%、降水量は67%であった。

農耕期間の積算値

期間	項目	平均気温	最高気温	最低気温	降水量	日照時間
		(℃)	(℃)	(℃)	(mm)	(hr)
4～10月	本年	3,126	4,147	2,229	470	1,170
	平年	3,130	4,101	2,267	725	1,015
	比較	△ 4	46	△ 38	△ 255	155
5～9月	本年	2,556	3,264	1,959	371	834
	平年	2,614	3,301	2,034	557	718
	比較	△ 59	△ 37	△ 75	△ 187	116

季節表

年次	初霜 (年. 月. 日)	根雪始 (年. 月. 日)	融雪剤根雪終 (年. 月. 日)	通常の根雪終 (年. 月. 日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年. 月. 日)	耕鋤始 (年. 月. 日)	晩霜 (年. 月. 日)
本年	H19. 10.16	H19. 11.27	H20. 3.25	H20. 3.30	124	H20. 4.12	H20. 4.15	H20. 4.26
平年	10.21	12.02	3.30	4.04	123	4.15	4.17	5.01
比較	△ 5	5	△ 5	△ 5	1	△ 3	△ 2	△ 5

注) 平年値は中央農試における平成10年～19年の10年間の平均値を用いた(根雪始は平成9～18年の平均値)。

積雪期間の平年値にはうるう年を含むため、根雪始・終の差と一致しない。

## 1. 秋まき小麦(平成19年播種)

作況(最終) : やや不良

事由: 9月2半旬以降の多雨のため、播種は平年より4日遅く、出芽期も4~5日遅れとなったが、出芽そのものは順調であった。10月中旬が低温に推移したため、この時期の生育の進展は緩慢であったものの、越冬前の茎数は1100~1200本/m<sup>2</sup>を確保できた。根雪終は平年より5日早かったが、雪腐病による冬損は「ホクシン」でやや多かった。融雪後4月は高温少雨に推移し、生育は進展したが、5月2半旬以降低温傾向となり、生育はやや停滞し、出穂期は「ホクシン」で平年並み、「ホロシリコムギ」で3日早となった。7月に入り高温に推移し、登熟が進展したが、成熟期は早生の「ホクシン」で平年より1日遅く、中生の「ホロシリコムギ」では1日早かった。稈長は平年並、穂長は並~やや長い、穂数は少なかった。本年は倒伏の発生が見られず、病害は「ホクシン」で冬損がやや多く、その他は全体に赤さび病の発生が目立った他は少な目の発生であった。子実重はやや早生の「ホクシン」で平年比93%と低収であったが、中生の「ホロシリコムギ」では117%と多収となった。リットル重、千粒重は両品種とも平年よりやや高めであった。

以上、「ホロシリコムギ」は多収であったものの、基幹品種の「ホクシン」が低収となったことから、本年の作況はやや不良である。

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H19.月.日)	9.19	9.15	4	9.19	9.15	4
出芽期	(H19.月.日)	9.25	9.21	4	9.26	9.21	5
出穂期	(H20.月.日)	6.04	6.04	0	6.08	6.11	△ 3
成熟期	(H20.月.日)	7.19	7.18	1	7.24	7.25	△ 1
冬損程度	(0:無~5:甚)	2.3	1.1	1.2	1.0	1.2	△ 0.2
草丈 (cm)	H19.10.20	16.8	21.9	△ 5.1	16.0	25.4	△ 9.4
	H20.5.20	57.7	52.5	5.2	62.5	52.8	9.7
	H20.6.20	105.4	96.3	9.1	109.9	104.8	5.1
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	H19.10.20	514	867	△ 353	456	901	△ 445
	越冬前(11月)	1259	1299	△ 40	1124	1424	△ 300
	越冬後(4月)	1511	1526	△ 15	1553	1751	△ 198
	H20.5.20	988	1171	△ 183	1143	1318	△ 175
成熟期における	稈長 (cm)	94	91	3	101	103	△ 2
	穂長 (cm)	8.9	9.0	△ 0.1	9.2	8.6	0.6
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	623	634	△ 11	557	628	△ 71
倒伏程度	(0:無~5:甚)	0.0	1.1	△ 1.1	0.0	2.3	△ 2.3
子実重	(kg/10a)	599	643	△ 44	679	582	97
リットル重	(g)	811	805	6	808	795	13
千粒重	(g)	39.7	38.3	1.4	46.3	43.6	2.7
品質	(等級)	1等	2等	-	2等	2等	-
子実重平年対比	(%)	93	100	△ 7	117	100	17

注1) 平年値は前7か年中、最凶(ホクシンH18、ホロシリH14)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く5か年平均(収獲年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度: 成熟期における倒伏程度。

## 1. 秋まき小麦(平成20年播種)

9月20日

作況：平年並

事由：播種は9月18日で平年値より3～5日遅いが、安定した越冬のために必要な主茎葉数6葉以上を確保するためには問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

10月20日

作況：やや不良

事由：播種後9月下旬は低温、少雨傾向に推移し、出芽期は播種期の遅れを上回る平年比5～7日遅れとなった。10月上旬まで低温傾向が続き、10月20日現在で草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ <sup>a</sup>		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H20.月.日)	9.18	9.15	3	9.18	9.13	5
出芽期	(H20.月.日)	9.26	9.21	5	9.26	9.19	7
出穂期	(H21.月.日)		6.05			6.11	
成熟期	(H21.月.日)		7.18			7.25	
冬損程度	(0:無～5:甚)		1.4			1.3	
草丈 (cm)	H20.10.20	17.0	21.2	△ 4.2	17.3	26.2	△ 8.9
	H21.5.20		53.1			52.0	
	H21.6.20		98.0			106.2	
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	H20.10.20	664	857	△ 193	548	1050	△ 502
	越冬前(11月)	1129	1428	△ 299	1120	1540	△ 420
	越冬後(4月)		1556			1688	
	H21.5.20		1167			1359	
成熟期に おける	H21.6.20		682			749	
	稈長 (cm)		91			103	
	穂長 (cm)		9.2			8.7	
倒伏程度	穂数 (本/m <sup>2</sup> )		642			664	
	(0:無～5:甚)		1.6			3.1	
子実重	(kg/10a)		642			593	
リットル重	(g)		804			789	
千粒重	(g)		37.9			42.6	
品質	(等級)		2等			2等	
子実重平年対比 (%)			100			100	

注1) 平年値は前7か年中、最凶(ホクシンH18、ホロシリH14)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH20)を除く5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

## 2. 春まき小麦

作況（最終）：平年並

事由：根雪終は平年より5日早い3月25日（融雪剤使用圃場）で、播種期は平年より1日早い4月15日であった。播種後の気温が高めに推移したため、出芽迄日数は短くなり、出芽期は平年より6日早かった。出芽期後の気温が高かったため初期生育は旺盛で、茎数は平年より多めに推移した。出穂期は平年より2～3日早かった。出穂後、登熟期間にあたる7月上～中旬の気温が高めに推移したため、成熟期は平年より4～5日早かった。稈長は平年より長く、穂長は概ね平年並みであった。穂数は平年より多かったが、出穂期から成熟期までの日数が短かったため一穂粒数と千粒重は平年を下回った。このため子実重は、「ハルユタカ」で平年比102%、「春よ恋」で平年比97%と、総体的に平年並となった。リットル重は平年より軽かったが、検査等級は平年並みから上回った。

以上により、本年の作況は平年並である。

品種名 項目 \ 年次		ハルユタカ			春よ恋		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4.15	4.16	△ 1	4.15	4.16	△ 1
出芽期	(月.日)	4.24	4.30	△ 6	4.24	4.30	△ 6
出穂期	(月.日)	6.19	6.21	△ 2	6.18	6.21	△ 3
成熟期	(月.日)	7.30	8.03	△ 4	7.29	8.03	△ 5
草丈	5月20日	25.1	20.4	4.7	25.5	20.8	4.7
(cm)	6月20日	87	77	10	89	80	9
茎数	5月20日	812	540	272	963	567	396
(本/m <sup>2</sup> )	6月20日	759	726	33	781	700	81
7月20日 また は成 熟期の	稈長 (c)	92	88	4	98	95	3
	穂長 (c)	8.8	8.4	0.4	8.4	8.6	△ 0.2
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	490	469	21	573	480	93
子実重	(kg/10a)	500	489	11	535	552	△ 17
一穂粒数	(粒)	29.3	31.8	△ 2.5	32.5	34.3	△ 1.8
千粒重	(g)	39.7	41.7	△ 2.0	40.7	42.9	△ 2.2
リットル	(g)	807	812	△ 5	813	821	△ 8
品質	(等級)	2中	2中		1	2中	
子実重平年対比	(%)	102	100	2	97	100	△ 3

\*) 平年値は前7カ年中、最豊（平成14年）、最凶（平成13年）を除く5カ年平均。

一穂粒数は、各反復で有効穂を50穂調査。リットル重は1リットル升による測定。

### 3. 大豆

作況（最終）：良

最終事由：播種期は平年より3日早く、出芽後は7月中旬まで好天に恵まれ生育は順調であった。開花期は平年より3～6日早く、開花期頃の主茎長、主茎節数および分枝数はほぼいずれも平年を上回った。8月下旬は低温に推移したが、それまでに十分な生育の確保されていたことにより、大きな影響はなく、主茎長および節数は平年を上回った。着莢数は、平年と比較して「ツルムスメ」で少なく、「ユウヅル」と「トヨムスメ」で概ね平年並であり、「スズマル」では多かった。一莢内粒数はいずれの品種も平年より多かった。百粒重は「ツルムスメ」と「ユウヅル」が平年より重く、「トヨムスメ」と「スズマル」は平年並であった。この結果、各品種の子実重は平年比109～135%と多収となった。

屑粒率は「ユウヅル」では裂開粒が多かったためやや高かったが、「ツルムスメ」、「トヨムスメ」、「スズマル」では平年より低かった。品質については「ユウヅル」は裂皮によって、「ツルムスメ」はしわによって平年を下回り、「トヨムスメ」、「スズマル」は平年を上回った。

以上により本年の作況は良である。

### 3. 大豆

品種名		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
項目	年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	6.02	6.01	0	6.02	6.01	1	6.02	6.01	1	6.02	5.31	2
開花期	(月.日)	7.16	7.22	△ 6	7.27	7.31	△ 4	7.15	7.18	△ 3	7.23	7.27	△ 4
成熟期	(月.日)	9.24	10.01	△ 8	10.14	10.19	△ 6	9.23	9.28	△ 6	9.26	10.03	△ 7
主莖長 (cm)	6月20日	9.1	8.8	0.3	9.0	9.0	△ 0.0	9.8	10.3	△ 0.5	7.3	8.2	△ 0.9
	7月20日	51.5	43.8	7.7	46.0	41.2	4.8	51.7	48.1	3.6	38.0	37.2	0.8
	8月20日	65.0	58.0	7.0	92.3	86.2	6.1	62.7	60.6	2.1	75.0	71.5	3.5
	9月20日	63.4	58.6	4.8	93.9	87.1	6.8	64.3	61.1	3.2	73.8	72.6	1.2
	成熟期	63.4	57.9	5.5	92.7	87.0	5.7	64.3	60.4	3.9	76.4	72.6	3.8
主莖節数 (節)	6月20日	3.4	3.4	△ 0.0	3.2	3.4	△ 0.2	3.2	3.1	0.1	3.1	3.4	△ 0.3
	7月20日	13.0	10.4	2.6	12.1	10.3	1.8	9.9	9.5	0.4	12.3	10.1	2.2
	8月20日	13.7	12.2	1.5	15.7	16.0	△ 0.3	10.1	10.5	△ 0.4	15.2	14.3	0.9
	9月20日	13.7	12.2	1.5	15.8	15.9	△ 0.1	10.4	10.3	0.1	14.8	14.3	0.5
	成熟期	13.7	12.0	1.7	15.9	16.1	△ 0.2	10.4	10.3	0.1	14.3	14.2	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	6.7	5.8	0.9	4.1	4.2	△ 0.1	6.6	6.1	0.5	7.8	7.1	0.7
	8月20日	7.6	6.4	1.2	4.1	4.8	△ 0.7	7.3	6.3	1.0	13.8	11.0	2.8
	9月20日	8.8	6.2	2.6	6.0	4.2	1.8	8.9	6.0	2.9	12.9	10.7	2.2
	成熟期	8.8	6.4	2.4	3.8	3.7	0.1	8.9	5.8	3.1	11.4	9.6	1.8
着莢数 (莢/株)	8月20日	50.6	55.8	△ 5.2	46.7	39.2	7.5	72.7	66.9	5.8	158.8	138.8	20.0
	9月20日	47.3	53.1	△ 5.8	53.3	52.9	0.4	61.6	63.6	△ 2.0	136.6	119.0	17.6
	成熟期	47.3	53.1	△ 5.8	53.8	51.1	2.7	61.6	62.6	△ 1.0	132.1	114.6	17.5
一莢内粒数		1.85	1.75	0.10	1.86	1.75	0.11	1.90	1.79	0.11	2.53	2.33	0.20
子実重	(kg/10a)	381	335	46	413	306	107	406	372	34	367	318	49
百粒重	(g)	53.6	46.5	7.1	51.2	42.6	8.6	40.6	39.8	0.8	15.1	15.0	0.1
屑粒率	(%)	1.4	2.4	△ 1.0	5.2	3.4	1.8	0.6	1.9	△ 1.3	0.8	2.0	△ 1.2
品質	(等級)	3中	3上		合格	3下		2下	3下		2中	2下	
子実重平年対比 (%)		114	100		135	100		109	100		115	100	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

注2) 「トヨムスメ」、「ツルムスメ」は9月作況の調査日と成熟期が近接しているため9月作況の調査値をもって成熟期調査値とした。

注3) 子実重および百粒重は子実水分15%換算値。

注4) ユウヅル屑粒率は10月20日発表値に誤りがあったため修正した。

注4) 品質の合格は特定加工用合格を意味する。

#### 4. 小豆

作況（最終）：やや良

事由：播種時期の降雨により、播種期は平年より4日遅い5月29日であった。6月中旬はやや低温に経過し、6月下旬～7月上旬にかけて降水量が平年より少なく、干ばつ傾向に推移したため、生育はやや停滞した。開花期および成熟期は平年より1日早く、成熟期の主茎長、主茎節数及び分枝数はやや平年を下回った。着莢数は平年の91%と平年より少なかったが、一莢内粒数がやや多く、百粒重も重かったため、子実重は平年比104%となった。屑粒率は平年より少なく、検査等級は平年並の3中であった。

以上により、本年の作況はやや良である。

品種名 項目 \ 年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 29	5. 25	4
出芽期	(月. 日)	6. 13	6. 10	3
開花期	(月. 日)	7. 24	7. 25	△ 1
成熟期	(月. 日)	9. 09	9. 10	△ 1
主茎長 (cm)	6月20日	3. 1	4. 1	△ 1. 0
	7月20日	18. 6	21. 0	△ 2. 4
	8月20日	60. 9	65. 2	△ 4. 3
	成熟期	65. 0	67. 1	△ 2. 1
主茎節数 (節)	6月20日	0. 9	1. 6	△ 0. 7
	7月20日	8. 6	8. 2	0. 4
	8月20日	12. 4	13. 1	△ 0. 7
	成熟期	12. 3	13. 0	△ 0. 7
分枝数 (本/株)	7月20日	2. 1	4. 3	△ 2. 2
	8月20日	3. 7	5. 1	△ 1. 4
	成熟期	3. 1	4. 3	△ 1. 2
着莢数 (莢/株)	8月20日	55. 2	60. 6	△ 5. 4
	成熟期	48. 8	53. 9	△ 5. 1
一莢内粒数		6. 46	6. 10	0. 36
子実重	(kg/10a)	351	339	12
百粒重	(g)	13. 7	13. 2	0. 5
屑粒率	(g)	3. 5	6. 4	△ 2. 9
品質	(等級)	3中	3中	
子実重平年対比	(	104	100	

5. ばれいしょ  
 作況(最終):良

事由：本年は融雪期が平年より5日早く、その後も4月は高温少雨に推移し、植付期は平年より3日早まった。植付後5月中旬がやや低温傾向であったものの、萌芽期は平年より5日早まった。開花始も平年より1日早く、7月に入り高温に推移したこともあり、7月2半旬より茎葉の黄化が始り、枯凋期の大幅な早まりによる塊茎肥大期間の短縮が懸念された。しかし、7月下旬以降低温傾向に推移したため、枯凋の促進は緩慢となり、平年より3日早く枯凋期を迎えた。このため塊茎の肥大は順調で、株当たりの上いも数はやや少ないものの、上いも平均一個重は平年より大きく、上いも重は平年を9%、中以上いも重では19%上回った。また、でん粉価はほぼ平年並みとなった。

以上により、本年の作況は良である。

項目 \ 年次		男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.30	5.03	△ 3
萌芽期	(月.日)	5.21	5.26	△ 5
開花始	(月.日)	6.22	6.23	△ 1
枯凋期	(月.日)	8.19	8.22	△ 3
茎長	6月20日	35	32	3
(cm)	7月20日	41	42	△ 1
茎数	6月20日	4.7	5.3	△ 0.6
(本/株)	7月20日	4.0	5.0	△ 1.0
8月20日における				
上いも数	(個/株)	12.8	14.0	△ 1.2
上いも平均一個重(g)		90	76	14
上いも重	(kg/10a)	5110	4666	444
でん粉価	(%)	14.7	14.8	△ 0.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	12.8	13.9	△ 1.1
上いも平均一個重(g)		90	77	13
上いも重	(kg/10a)	5110	4699	411
中以上いも重(kg/10a)		4371	3678	693
でん粉価	(%)	14.7	14.9	△ 0.2
上いも重平年対比 (%)		109	100	9
中以上いも重 " (%)		119	100	19
でん粉価 " (%)		99	100	△ 1

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最凶)、19年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g/個以上、「中以上いも」は61g/個以上。